

## 会議録

会 議 名	平成21年度 第2回 八王子市地域保健福祉推進協議会	
日 時	平成21年11月13日(金) 午後1時30分～3時30分	
場 所	八王子市役所 本庁舎・議会棟 第6委員会室	
出席者	委 員 (敬称略)	赤上晃、稲川芳江、大山博(会長)、小野塚幸子、佐々木武麿、塩澤迪夫、関谷和久、伊田靖史、野山修、早川満、平川博之、平塚美臣、松浦明美、森真一、山口幸男 (15名)
	事務局	小林 健康福祉部長、橋本 高齢者・障害者担当部長、遠藤 健康福祉総務課長、塚本 高齢者支援課長、尾川 地域医療推進課長、内堀 健診・保健指導担当主幹、尾寄 保健総務課長 (7名)
欠席委員 (敬称略)	赤穂保、和気純子 (2名)	
議 題	1 八王子市地域保健福祉計画の進行状況について 2 保健医療・福祉に関する協議事項について 3 その他	
公開・非公開の別	公開	
非公開理由		
傍聴人の数	なし	
配付資料名	(事前配付) 資料1 八王子市地域保健福祉計画の進行状況(新規・拡充の取組み) 資料2 各計画-行動計画(案) (当日配付) 資料3 総合的な保健福祉推進拠点の整備について  (当日配布) <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin-top: 10px;">           参考1 八王子市地域保健福祉計画の進行状況(全体)            参考2 八王子市地域保健福祉推進協議会の策定概要            参考3 地域福祉推進計画の策定状況         </div>	

<p>会議の内容</p>	<p>開会  <b>【事務局】</b>  1) 小林 健康福祉部長挨拶</p> <p>議事  <b>【会長】</b> 委員会出席者 15 名。定足数 (9 名) に達しているので、第 2 回地域保健福祉推進協議会を開催します。それでは議事に入ります。</p> <p>1) 八王子市地域保健福祉計画の進行状況について  <b>【会長】</b> 事務局から一括して説明をお願いします。  <b>【事務局】</b> 地域保健福祉計画の進行状況で C 評価の取り組み (事業の見直しが必要なもの、計画の内容が計画期間内に達成することが困難なもの) は無かったことを報告。  資料 1、2 に基づき、健康福祉総務課長が地域福祉計画進行状況・地域福祉計画行動計画 (案) 保健総務課長が保健医療計画進行状況・保健医療計画行動計画 (案) 高齢者支援課長が高齢者計画進行状況・高齢者計画行動計画 (案) を説明。進行状況は取り組み評価が B (評価時点で多少の変更や遅れ等があるが、計画期間内に計画の実現が可能なもの) になったもののみ説明。  <b>【事務局 (健康福祉総務課長)】</b> 行動計画 (案) は地域福祉計画 35 事業中 10 事業、保健医療計画 48 事業中 10 事業、高齢者計画 36 事業中 7 事業を策定しました。具体的な事業として行動計画を決定し、進行管理を充実していく必要があります。  <b>【会長】</b> ありがとうございます。それでは、一括して皆様方からご意見・御質問等ございましたらお願いします。  <b>【委員 (野山)】</b> 保健医療計画の行動計画 1 ページの食育の推進「食ネットナビ」は、ホームページを使った市民への情報発信ですが、これはどのようになっているのでしょうか。それと現在、ホームページに食育ネットがありますが、検索が難しいと思います。市民の立場からすると「健康のために」からリンクするなど、簡単にできないのでしょうか。あと、その下に「その他の健診」があるが、その他ではなく、長くなるが分かりやすいように項目を掲載してみてもどうでしょうか。さらに、はちおうじ健康づくり推進協議会があるが、これも「健康のために」に持っていったらどうでしょうか。これら、ホームページの作り方に関しての意見ですが、市の見解はいかがでしょうか。また、質問ですが進行状況の取り組み No.8 で、特定保健指導利用者数が積極的支援と動機付け支援で 9 月末の人数が 0 と 7 で少ないようですが、その理由はなぜでしょうか。さらに、No.9 で平成 21 年度の目標では、18～39 歳の健康診断 1,800 人、歯周疾患検診 400 人とありますが、9 月末までの実績が無いのは 0 ということでよろしいでしょうか。  <b>【事務局 (保健総務課長)】</b> 食育の関係のホームページですが、市のホームペー</p>
--------------	--

ジ全体としてアクセスしにくいというご意見をいただいています。市民にとって見やすいような仕組みにしなければいけません。全て要望に対応しきれないかもしれませんが、ご意見を踏まえて早急に実施します。

【事務局（健診・保健指導担当主幹）】特定保健指導利用者数の中で、積極的支援と動機付け支援ですが、健診は5月末から実施しており、健診結果を分析して簡素化するのに健診結果が出てから3ヶ月かかります。9月末現在の人数を反映させるには、もう少し時間がかかります。

【委員（野山）】では、下半期にはわかるということですか。

【事務局（健診・保健指導担当主幹）】そうです。あと、18～39歳の健康診断と歯周疾患検診ですが、9月末現在では実施していません。

【会長】かつて、地域交流サロンは国の事業で補助金がついたが、今は打ち切られて、費用が出ない、どう工面するか色々なところから話が聞かれました。八王子市が、一つひとつの事業に予算をどれだけつけているか、予算規模がわかるようにはできないでしょうか。

【事務局（高齢者支援課長）】高齢者に関わるふれあいサロンですが、平成20年実績で予算が480万円、執行額が約454万2千円です。現在、計画数値を上回るサロンが立ち上がっており、62団体が事業継続しています。一団体・概ね月1回のサロン実施で年6万円、月2回で年12万円助成しています。今は国の補助金は無く、平成20年度に社会福祉協議会の事業から高齢者支援課の事業になってから市の単独事業です。

【事務局（高齢者・障害者担当部長）】社会福祉協議会の事業であった時は、3年という期限がありましたが、サロン活動は重要だということで、高齢者支援課の事業で社会福祉協議会に委託で実施するようになってから期限を無くしました。

【委員（佐々木）】私も利用させていただいていますが、市の単独事業になってから、「規約を持ってなければいけない」「予算の執行も確実か」「差額を返納する」など、厳しくなりました。サロンは、お年寄りが自分から健康を維持するための事業です。今まで社協開催の時は、大きな地域社会でここに来てくれというものだったが、市の事業になってから小さな単位で、町会など限られた地域住民が、玄関から町会の会館まで歩いていけるようになりました。それも健康を維持するための方策としてとらえられます。一人暮らし高齢者や高齢者だけの世帯が、月1回、2回そういう場に行って、心の安らぎ、交流をしています。また、健康体操を含めることで、体が不自由だった方が目に見えて回復してくるのがわかります。ぜひ、継続的に予算をつけていただいて、老人福祉に目を向けていただきたいと思います。さらに、東浅川保健福祉センターで行っている健康増進教室のリーダー養成をサロン活動にリンクさせて、広げてほしいと思います。サロンは保健福祉と安全も含めた場になっています。

【委員（関谷）】介護予防リーダーの養成ですが、東浅川保健福祉センターは今年20人位いました。今月は南大沢保健福祉センターですが、12～3名の希望者がいるという話です。介護予防リーダーが、もう少し増えれば良いと思い

ます。

【会長】サロンの事業内容が、マンネリ化しているという話も聞きます。メニューもアイデアを凝らし、他のサロンにも情報を共有化できれば良いと思います。民生委員だけでなくボランティアや介護予防リーダーなど、色々な人たちが参加するとマンネリ化を防げます。サロンのメンバーも常連が多く、新しい人が参加できないなど、工夫が必要です。それと、この全事業について、予算規模が出せないか、客観的な議論をしたいと思います。可能でしょうか。

【事務局(健康福祉総務課長)】次回の資料には、具体的に経費がかかっている事業については、お示しさせていただきます。

【委員(多田)】障害者サロンについて、社協の取り組みとなっているが、具体的に示して欲しい、心配である。ニーズはあると思うので、検討する場が必要です。

【事務局(高齢者・障害者担当部長)】前段の計画は障害者計画や障害福祉計画です。その中に位置付けることが必要で、整理をしてもう少し議論が必要です。

【会長】サロンは事業の目的が大切である。市民感情で「何でサロンに税金を使うのか」ということになる。健康増進、健康体操、高齢者の孤独死があるからなど、目的がはっきりしていれば理解しやすい。

よろしいでしょうか。その他にありますか。

【委員(早川)】3保健福祉センターのあり方ですが、現在、大横、東浅川、南大沢と3つです。総合的な保健・医療・福祉の拠点の整備とありますが、4つ目ができるのか、それらをまとめて上に1つできるのか、どのような計画でしょうか。

【事務局(健康福祉総務課長)】大横福祉センターがあるが、老朽化しているので、そこに総合保健福祉センター(仮称)を整備しながら、東浅川、南大沢と業務を連携して進めていくという計画です。4つ目ではなく大横福祉センターを建て直すことで、総合的な保健・福祉の拠点として整備をしていくということです。

【委員(早川)】現在の保健福祉センターの地域的なバランスについてはどうでしょうか。

【事務局(健康福祉総務課長)】具体的に圏域は議論していません。3保健福祉センターが充実してくると圏域的には20万人位が対象となり、60万都市になっても大丈夫です。

【会長】それでは、次の議題でよろしいでしょうか。

## (2) 保健医療・福祉に関する協議事項について

【事務局(健康福祉総務課長)】資料3に基づいて、総合的な保健福祉推進拠点の整備について説明。

【会長】3つの総合保健福祉センターができます。その際に、圏域という言葉がエリアをさすが、生活エリアとすると60万の人口に対して3つではエリアが大きすぎる。所管としてみる方がよい、色々な社会資源を使ってどのように

ネットワークをつくり、どのような機能を持たせて行ったらよいか、例えば総合保健福祉センターの下に中間的な福祉センターがあり、地域包括支援センターがあるなど、福祉や医療の既成の施設がある。これをどう結びつけるか、どういう機能を持たせたら良いのかを議論した方が良いと思います。箱の中身からではなく、機能の面からネットワークを議論した方が良いのではないのでしょうか。それではどうでしょうか。

【委員(小野塚)】中央地区というのは、今の八王子福祉センターの場所に建てるということですか。

【事務局(健康福祉総務課長)】そうです。そこに整備していきます。エリアはどこまでとか議論していませんが、八王子市の中央地域の一つの拠点となるように整備の予定です。

【委員(小野塚)】子育て中のお母さん方が、保健センターが一番使うのは予防接種で、車で行くのが不便です。跡地に建てたときに駐車場の関係がネックになります。

【事務局(健康福祉総務課長)】施設の規模の問題になりますが、今は最低でも100台からの駐車場を考えています。

【委員(稲川)】ゆりかごから墓場までのように、福祉センターと保健センターが一緒なら理想的なものができますね。

【委員(塩澤)】55万の人口で、3カ所では絶対的に少ない、例えば市民センターが17館、事務所もあります。そういったところを拡張・改築して施設にしていく、予算は必要かと思いますが、いずれはそういった大きな構想も必要かと思いますが、近い人は良いですが、川口町などはどうしたら良いでしょう。

【事務局(健康福祉総務課長)】中央地域事務所が再開発ビルにできるが、子どもの分野、高齢者・障害者の分野も少しずつ、できる範囲で窓口を設置しているかと検討しています。全ての窓口を作るとは行かないが、市の考えとしてはできるだけ、地域に根ざした地域サービスをできるように考えています。

【委員(佐々木)】八王子市は、3つの保健福祉センターを基調にしようと考えています。これから大横町に新しいセンターを作りますが、箱者として対応するのか、それとも今ある既存の南大沢と東浅川を機軸にして、八王子市全体をカバーできるようなネットワークを構築し、その視点で議論していくのか、ということがあります。私は、地域福祉の基盤は住民が機軸だと思います。ここでネットワークのコアができます。八王子市が持っている行政機関、事務所や市民センターが1つの核として、保健・医療・福祉の機軸を作っていけば、その上に圏域があります。下から見えていく発想が必要です。

【事務局(健康福祉総務課長)】保健・福祉関係の施設をうまく連携し活用していきたいと思います。それが、ある程度のネットワークができたなら事務所や市民センターを活用させていただきます。職場内で災害時要援護者支援事業をどうしていくのかを議論していくと、それぞれの地域に根ざしていかないとできない、われわれがもう少し地域に入っていくとできません。

【会長】阪神・淡路大震災の教訓から、神戸市は防災福祉ハンドブックを作っ

て啓蒙活動をしている。生活圈・エリアは、子どもでも歩いていける小学校区です。そこに防災福祉、地区社協などの生活に密着した拠点を置いています。それと、隣の地域と協力しなければならないので、次は中学校区を圏域としています。そこには、福祉センターレベルのものを作っていく、八王子市でいえば、地域包括支援センターが12カ所あるから、そういうものを活用します。地域包括も色々役割があるから、拠点はそこに置き、さらに福祉を連携させるとか、保健を付加するとか、組み合わせて中間領域のセンターにしていく、その上に3つの総合保健福祉センターがきます。このように、3段階の地域割りをしていけば機能的に考えられる。最近、防災の問題が出てきて、災害時には地域の住民が駆けつけてくれることから、市民意識は変わってきています。総合保健福祉センターは、小学校区、中学校区と全体をまとめていく機能があり専門店的なイメージ、末端はコンビニ型の便利屋的な機能を持ち、中間はそれをバックアップする機能を持ち、やや専門性のある人を置けばよいと思います。あと、ネットワークづくりが一番下手なのは、本来上手でなければならない福祉関係者です。保健師はそれなりに機能を果たしていて、医療系の人たちは個人の身体のことには情報をもっています。個人の社会生活の情報が大切で、デスクワーク中心にやっていると、つかみきれいていません。今後、福祉とのネットワークづくりをしていくためには、地域の人・モノ・金の情報を把握して、つなげる力がなければなりません。地域の実態を把握して、どう活用できるかの目線が大切で、そのような人を意識的に八王子市も育てなければいけません。それができれば、ネットワークづくりは下から組み立てられていきます。

【委員(早川)】保健福祉センターが3カ所ということで、人口20万人に1カ所です。20万人というと立川市は20万人いない、多摩地区で町田市くらいです。八王子市は55万~60万人で、あと1カ所くらい考えた方が良いでしょう。

【事務局(健康福祉総務課長)】行政が担っている業務で、どのようなサービスを提供しているか中身の問題になるが、ネットワークをつなげる核として、3つのセンターが位置付けられます。また、ブランチ的なものを作っていく必要があります。

【会長】機能的に見ると総合保健福祉センターは専門店、その下の中学校区を束ねたクラスの間領域はスーパー、その下の生活に密着したものはコンビニ、そのようなものを拠点に置いて、全体をネットワークでつないでいけば、おのずと専門店の中身は決まってきます。財政的に見ても総合保健福祉センターは、3つが手一杯ではないでしょうか。

【委員(多田)】総合保健福祉センターというと、保健的な中身や内容のような気がします。地域コミュニティの位置付けができていく保健センターとの住み分けは今のままでしょうか。

【事務局(保健総務課長)】保健所と保健センターの位置付けですが、平成19年4月に東京都から保健所業務を引き取り一体化しました。例えば、母子健診については、もともと保健所が実施していた業務を市町村業務として八王子市

	<p>に移したのですが、保健所自体が八王子市になりました。本来は保健所と保健センターを一体化して、もっと連携が取れるように変えていかなければと私自身は思います。精神保健と難病保健については保健所で、母子保健と成人保健は保健センターと区分けされています。東京都と八王子市で業務を分けていただけであり、本来同じ組織で面倒を見てもらった方が、市民にはわかりやすいと思います。将来的には、そうすべきだと私は思います。建物の話ですが、保健所の保健師と保健センターの保健師が、同じスペースにいた方がベターです。こんな内容で答えになっていたでしょうか。</p> <p>【会長】そろそろ時間も押してきました。他にはよろしいですか。この議論は、まだ継続していきます。今日のところは、3つの総合保健福祉センターをつくり、地域の実情を考えながら、どのような機能・ネットワークを作っていくかを議論しました。</p> <p>それでは次に、その他の議題です。</p> <p>(3) その他</p> <p>【事務局(健康福祉総務課長)】 参考2に基づいて、八王子市地域保健福祉推進協議会の今後の方向性、各計画の状況、平成22年8月以降の協議会委員の考え方について説明。</p> <p>【会長】それではよろしいですか。</p> <p>【事務局(健康福祉総務課長)】 参考3に基づいて、社会福祉協議会の地域福祉推進計画の策定状況について中間報告。</p> <p>【会長】よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、第2回の地域保健福祉推進協議会を終了します。</p>
<p>会議録署名人</p>	<p>平成21年12月28日      大山 博</p>